

平成26年度
(2014年度)

事業報告書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)



社会福祉法人近江八幡市社会福祉協議会

【総括報告】

ベースアップの実施等、社会経済環境は、好転の兆しを見せてはいる反面、経済的な問題とともに様々な生活課題を深刻化させ、生活困窮に陥っている生活困窮者をめぐる課題に対する取り組みを強化することが強く求められています。

近江八幡市社会福祉協議会としても、近江八幡市から生活困窮者自立支援法に基づく家計相談支援モデル事業の委託を受け、生活困窮者に対して相談事業を実施するとともに緊急的に食料を必要とされる方への対応を強化するなど、これまで社協が実施してきた生活福祉資金貸付事業や、地域福祉権利擁護事業における相談支援や地域関係者とのネットワークの基盤と併せ、支援体制の強化に努めるとともに、法が求める、市行政との連携強化を図り、迅速な対応ができる体制を整えました。

次に重要課題として掲げています「社協の見える化」、つまり社協の存在を地域社会に広めて行く活動として、各地域や学校現場における福祉教育の推進に努め、学区（地区）域での研修会協力は前年度に比べ25%増、学校での福祉教育への協力は40%増加する実施成果あげることができました。また、現在3学区（地区）で実施されております小地域ケア会議の開催について、27年度以降、他の複数学区においても実施できる目途を立てることができました。

地域福祉の担い手として、地域に出向き、地域社会の中に浸透した活動を行うことにより、職員が地域から信頼され必要とされる存在になれるよう、より一層の地域活動の推進を図りたいと考えております。

ボランティアセンター事業について、相談受付や情報提供件数また活動依頼件数は活動者との関わりを強め、啓発活動を強化した結果、前年度に比べ70%を超える増加となりました。また、26年度に実施した見守り支えあいの推進を目指した暮らし応援サポーター養成講座等に見られるように意図を持った事業展開を今後充実させて、組織化を図っていく必要があると考えております。また、一昨年台風18号の災害に見られるように、社協に求められる役割として災害ボランティアセンターの運営があります。社協単独では実施困難なことではありますが、関係機関と連携して実施しました災害講座等を通して、地域社会とのネットワークの構築を図り、ボランティアセンターと一体となった組織運営が図れるよう地域福祉活動の実践を進めます。

次に、介護保険事業等についてですが、7事業中3事業において赤字を計上しました。原因は稼働率（利用者の減少）の低下が主要因と考えております。27年度は介護報酬の引き下げもあり経営的には苦しくなりますが、稼働率を採算ベース以上に引き上げるとともに、支出についても精査していきたいと考えております。これらの事業は、社協にとりましても、財源確保の観点から重要な事業であり今後も経営内容について注視するとともに、法人全体の事業運営、経営、ならびに職員育成の強化をより一層図る必要があると考えております。

【事業別報告】

1. 法人運営

〈評価と今後の方向性〉

平成26年度は、社会福祉協議会の基盤強化を図るための発展強化計画の1年目として事業運営を行いました。この計画をもとに厳しい経営状況のなかで、安定した組織運営を行っていくための事業戦略や組織・経営基盤の強化を図りました。

(1) 会務の運営

①理事会

本会活動の適正な運営と総合的な活動の推進を図るため、理事会を開催しました。

平成26年度は3回開催しました。

開催日	議事内容
第1回 平成26年5月27日	1. 平成25年度事業報告について 2. 平成25年度一般会計決算について 3. 嘱託職員および臨時職員就業規則の改正について 4. 評議員の補欠選任について 5. 会長および副会長の補欠選任について 6. 顧問の委嘱同意について
第2回 平成26年12月18日	7. 平成26年度一般会計第1次補正予算(案)について 8. 嘱託職員および臨時職員就業規則の一部改正について 9. 相談支援事業所運営規程の一部改正について 10. 経理規程の全部改正について 11. 評議員の補欠選任について
第3回 平成27年3月24日	12. 平成27年度事業計画(案)について 13. 平成27年度一般会計収支予算(案)について 14. 居宅介護支援事業所運営規程の一部改正について 15. デイサービスセンターひまわり運営規程の一部改正について 16. デイサービスセンターひまわり(介護予防)運営規程の一部改正について 17. デイサービスセンターきらめきあづち運営規程の一部改正について 18. デイサービスセンターきらめきあづち(介護予防)運営規程の一部改正について 19. ヘルパーステーションあづち運営規程の一部改正について 20. ヘルパーステーションあづち(介護予防)運営規程の一部改正について 21. デイサービスセンターほのぼのあづち運営規程の一部改正について 22. デイサービスセンターほのぼのあづち(介護予防)運営規程の一部改正について 23. 居宅介護事業所運営規程の一部改正について 24. ガイドヘルプひまわり運営規程の制定について 25. 職員就業規則の一部改正について

	26. 職員給与規則の一部改正について 27. 職員の期末手当および勤勉手当の支給に関する規程の一部改正について 28. 職員の初任給、昇格、降格、昇給および降給に関する規則の一部改正について
--	--

②評議員会

本会事業の適正な運営と総合的な活動の推進を図るため、評議員会を開催しました。
平成26年度は、3回開催しました。

開催日	議事内容
第1回 平成26年5月27日	1. 平成25年度事業報告について 2. 平成25年度一般会計決算について 3. 理事の補欠選任について
第2回 平成26年12月18日	4. 平成26年度一般会計第1次補正予算(案)について
第3回 平成27年3月24日	5. 平成27事業計画(案)について 6. 平成27年度一般会計収支予算(案)について

③監事会

会計の透明性を図るため、監事による監査を実施しました。

また、会計事務所による定期監査を毎月1回定期的に受け、会計事務の透明性、正確性
を図りました。

開催日	内容
平成26年5月21日	平成25年度の事業報告および決算の監査

(2) 社会福祉協議会の基盤強化

①会費の募集

賛助会費の募集について、役員および職員で取り組みました。

	平成26年度	平成25年度
一般会費	6,548,920円	6,548,920円
賛助会費	615,000円	635,000円

(3) 苦情解決の実施

社会福祉協議会が実施するサービスの苦情解決を図るため、第三者委員を設置しました。
第三者委員が聞き取りを行う苦情が1件ありました。

また、サービスの向上を図るため、本所、支所それぞれにおいて、毎月1回職員による
サービス向上委員会を開催しました。

①相談（苦情）件数および事故件数

	平成26年度	平成25年度
福祉サービスに対する相談（苦情）	5件	11件
福祉サービスにおける事故	32件	33件
地域福祉活動に対する相談（苦情）	0件	1件
地域福祉活動における事故	3件	3件
施設管理業務に対する相談（苦情）	0件	0件
施設管理における事故	0件	0件
その他	3件	0件
合計	43件	48件

2. 庶務

〈評価と今後の方向性〉

社会福祉協議会の活動を広報紙「社協おうみはちまん」やホームページを通して啓発してきましたが、今年度は、さらにブログやフェイスブックなどを通して情報発信を行いました。

今後も様々な媒体からリアルタイムに情報発信していきたいと考えています。

（1）広報啓発

市民に対し社協活動や地域福祉への理解を深めるため、広報紙を発行するとともに、ホームページ等を通して啓発を行いました。

また、福祉功労者への表彰と福祉に対する啓発を目的に市と社会福祉大会を開催しました。

①広報紙「社協おうみはちまん」の発行 5月、7月、9月、11月、1月、3月

②ホームページ、ブログ、フェイスブックによる情報発信

③社会福祉大会

と き：平成26年10月18日（土）

と ころ：近江八幡市文化会館 小ホール

内 容：表彰、

シンポジウム（近江八幡市ボランティアセンターの取り組み～ボランティア活動 今とこれから～）

参加者：約200名

（2）助成事業

福祉団体等に対し助成を行いました。

①学区（地区）社会福祉協議会に対し助成

②団体助成（福祉関係団体助成 11 団体に助成）

③ボランティアグループ助成（11 グループに助成）

3. 受託事業

〈評価と今後の方向性〉

行政からの運営費補助の増額が望めないなかで、社会福祉協議会は、行政からの委託事業を受託し、事業を実施していきたいと考えています。

平成26年度も総合福祉センターの業務の一部を受託し、管理を行いました。

（1）施設運営管理

総合福祉センターの一部業務（貸館業務）の委託により実施しました。また、安土デイサービスセンターについては、無償貸与を受け施設管理を行いました。

〈施設の利用日数〉

	平成26年度	平成25年度
貸館合計	1,082 (100%)	1,063 (100%)
市関係	555 (51.3%)	548.5 (51.6%)
福祉団体等	383 (35.4%)	374 (35.2%)
社会福祉協議会	144 (13.3%)	140.5 (13.2%)

（2）相談事業

介護保険にかかわるサービス向上に向けて、市担当課と連携を図りました。

①介護保険総合相談受託事業

〈新規申請相談件数〉

平成	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	21	20	32	27	22	35	27	22	26	34	29	30	325

4. 関係機関事務

〈評価と方向性〉

共同募金、日本赤十字社社資募集について、自治会、団体および事業所等の協力を得て実施しました。

歳末たすけあい募金の助成については、学区（地区）社会福祉協議会や福祉団体が実施する事業等に助成しました。

(1) 近江八幡市共同募金委員会

共同募金委員会事務局として、共同募金の事務や啓発活動を行いました。

①赤い羽根共同募金

	平成26年度	平成25年度
赤い羽根共同募金	6,694,695円	6,993,929円

②歳末たすけあい募金

	平成26年度	平成25年度
歳末たすけあい募金	4,606,686円	4,679,464円

③助成

助成においては、審査委員会を設置し、公正な助成を行っています。

〔一般募金助成事業〕

高齢者福祉活動費	学区（地区）老人福祉事業
児童・青少年福祉活動費	自治会（遊び場）、福祉活動推進校
福祉活動対策費	学区（地区）社協、まち協、福祉活動団体、市社協
ふれあい福祉助成	自治会
見守り支えあい活動助成	

〔歳末たすけあい助成事業〕

歳末助成金	各学区（地区）社協事業、福祉団体事業、市社協事業（地域支援事業、歳末事業）
-------	---------------------------------------

④災害援護活動

火災見舞金：1件

(2) 日本赤十字社滋賀県支部近江八幡市地区

日本赤十字社に協力し、活動資金である社資募集を行いました。

①日本赤十字社社資募集

	平成26年度	平成25年度
一般社資（個人）	5,416,369円	5,823,215円
特別社資（法人）	834,937円	1,368,500円

②災害援護活動

火災見舞金：1件

5. 団体事務

〈評価と方向性〉

市民生委員児童委員協議会、市赤十字奉仕団、保護司会の事務局を担い、地域福祉の推進を図りました。

今後とも連携しながら支援を行っていきたいと考えます。

①近江八幡市民生委員児童委員協議会

②近江八幡市赤十字奉仕団

③近江八幡保護区保護司会

6. 地域福祉活動の推進

〈評価と方向性〉

地域福祉活動計画の3年目として、目標達成に向けて取り組みました。

小地域ケア会議の取り組みでは、新たに北里学区において小地域ケア会議を開催しました。引き続き、他学区でも行っていただけるよう啓発をすすめます。

また、職員の地域担当制の3年目として、地域に出向く中で、地域の課題に応じた取り組みが推進できるよう関わりを強化したことにより、地域からの相談等が増えています。今後とも、地域の福祉と一緒に考えることのできる身近な存在と感じていただけるよう地域に出向き必要に応じて支援できるよう体制づくりをすすめていきます。

(1) 学区（地区）社会福祉協議会活動の支援

①小地域ケア会議の開催

小学校区において、地域に密着した情報共有、課題解決の場として、市福祉総合相談課や地域包括支援センター等の協力を得て、学区（地区）社会福祉協議会と共同で開催したものです。

平成26年度は、平成25年度に引き続き開催の安土地区と武佐学区で開催し、前述しましたが、北里学区でも開催しました。

また、八幡学区では、自治会単位とする福祉委員会の設立の呼びかけをまちづくり協議会などで行いました。

今後とも、各学区にあった方法で、地域の福祉課題の解決に向けた話し合いの場づくりを進めていきたいと考えています。

◇北里学区

開催日	内容	参加者
平成26年11月21日	○小地域ケア会議について（説明） ○地域における見守り活動の必要性について ○事例紹介（十七・お手伝いボランティアグループ「あしがる」） ○グループワーク ①事例を聞いて、既存活動に取り入れたいこと、新たに取り組	24名

	<p>んでいきたいこと</p> <p>②地域での連携や取り組みの推進について</p>	
--	--	--

◇武佐学区

開催日	内 容	参加者
平成26年 6月30日	<ul style="list-style-type: none"> ○小地域ケア会議について（説明） ○武佐学区地域福祉計画について ○東部地域包括支援センターについて（紹介） ○地域における見守り活動について （十七・お手伝いボランティアグループ「あしがる」） ○グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ①家庭や近所でのあいさつ・声かけ、見守り、支えあいの取り組みについて ②自治会単位での気軽に集える場づくり、情報把握や見守りの仕組みづくり、福祉活動の周知や見守り声かけ等の意識啓発について 	36名
平成26年11月18日	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回小地域ケア会議の振り返り ○高島市の紹介 ○地域での取り組みに向けての話し合い 	22名

◇安土地区

開催日	内 容	参加者
平成26年 6月28日	<ul style="list-style-type: none"> ○小地域ケア会議について（説明） ○安土町地域自治区における見守り支えあい活動の必要性と現状について ○東部地域包括支援センターについて（紹介） ○先進地事例の紹介 愛荘町 東円堂福祉ボランティア「まどか」徳田繁子さん ○グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ①事例を聞いて、既存活動に取り入れたいこと、新たに地域で取り組んでいきたいこと ②地域での連携や取り組みの推進について 	99名
東：平成26年9月18日 北：平成26年9月19日 南：平成26年9月26日 西：平成26年9月30日	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回小地域ケア会議の振り返り ○高島市の活動紹介 ○地域での取り組みに向けての話し合い 	107名
平成27年 2月21日	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の小地域ケア会議の振り返り ○活動報告 江ノ島「江ノ島見守り隊の取り組みについて」 ○グループワーク 平成26年度の振り返りと来年度に向けての取り組みについて 	74名

②地域福祉推進員活動の支援

地域福祉推進員は、各学区（地区）社協に1～2名設置し、学区（地区）社協会長とともに学区（地区）社協事業の企画や運営を行っていただくことを目的に設置するものです。

各学区（地区）社協の連携を深めるとともに情報交換を行うことを目的に地域福祉推進会議を開催しました。今年度は、学区（地区）社協担当職員会議と合同で開催しました。

開催日	内容
平成26年 6月17日	福祉協力員・地域福祉推進員の活動について 見守り支えあい活動の推進について 災害ボランティアセンター開設・運営に向けた体制づくりについて 生活困窮者支援の取り組みについて 情報交換

③福祉協力員活動の支援

福祉協力員は、学区（地区）社協会長が自治会単位に設置をお願いし、委嘱するものです。平成26年度は、各学区（地区）社協で278名の福祉協力員が活動をされました。

ふれあいサロン活動や見守り活動など、身近な地域における福祉活動の必要性が高まっています。今後、福祉協力員の役割と活動内容が地域に浸透していくように、学区（地区）社協および地域福祉推進員と連携し、推進していく必要があります。

◇学区（地区）社協別福祉協力員数

学区	八幡	島	岡山	金田	桐原	馬淵	北里	武佐	安土	合計
人数	58	8	27	29	31	25	23	20	57	278

また、福祉協力員活動の支援を目的に研修会を開催しました。平成26年度は、2回の研修会を開催したほか、各学区（地区）社協においても研修会を開催されました。

なお、第2回目の講座は、公開講座として開催しました。

開催日	研修内容	参加者
平成26年 7月15日	○福祉協力員活動と地域における見守り活動について ①市内における取り組み状況について ②県内の取り組み紹介について ③福祉協力員活動紹介 ○情報交換	66名
平成26年 8月28日	「認知症の基礎理解と地域での関わりについて」 講師：認知症介護指導者 渡辺哲弘さん	79名

④学区（地区）社会福祉協議会会長会の開催

学区（地区）社協間の情報交換や連携を行っていくため、学区（地区）社協会長会を開催しました。

開催日	協議事項
平成26年 5月20日	①理事会審議事項 ②各学区の動きについて
平成26年10月30日	①各学区（地区）社協活動について ②歳末たすけあい運動について
平成27年 3月19日	①各学区（地区）社協の動き ②理事会審議事項

⑤学区（地区）社協交流会

よりよい学区（地区）社協活動の推進のため、学区（地区）社協役員、地域福祉推進員、学区（地区）社協担当者を対象に交流会を開催しました。

今後とも、地域の福祉課題にあった活動の展開ができるよう、各学区（地区）の状況を把握しながら、充実した交流や研修などの機会を企画していきます。

開催日	内容	人数
平成27年 2月10日	○研修テーマ：話し合いから取り組みにつなげる社協活動 『思いをカタチにし続ける』 講師：虎姫福祉の会 田邊 太美雄氏 ○意見・情報交換	37名

（3）自治会単位の地域福祉活動の推進

①ふれあいサロン活動の支援

住民同士のつながりを深め、支えあう地域づくりのため、各地域でふれあいサロンが開催され、閉じこもりがちな人の居場所づくりや地域における見守り活動として有効な活動として根付いてきています。今後、更に、身近な地域における交流の場と機会が増え、内容が充実するよう、各学区（地区）社協と連携し、推進していく必要があります。

学区	八幡	島	岡山	金田	桐原	馬淵	北里	武佐	安土	合計
地域	20	8	10	18	20	12	6	17	34	145
回数	88	59	81	296	218	194	51	113	559	1,659
平成25年度開催地域：143地域							平成25年度開催回数：1,502回			

②ふれあいサロン交流会の開催

ふれあいサロンボランティア等を対象に、ふれあいサロンの運営に関する情報提供や活動の様子などの情報交換の機会として交流会を開催しました。

開催日	内容	人数
平成26年11月17日	レクリエーションの紹介（レクボラ じゃん・けん・ポン）	84名
11月20日	ふれあいサロン活動紹介（馬淵町ふれあいサロン） 情報交換 ※2日に分けて同じ内容で開催	35名 計119名

③小地域ネットワーク活動の支援

自治会を単位として、住民主体で見守り、支えあいのできる組織づくりを推進しました。

平成26年度は、平成25年度からの継続した支援をしている地区に加え、5地区の新規取り組みを支援しました。

今後、学区（地区）社協と連携し、新たに取り組む地域を増やしていくことが課題です。

支援地域数	福祉推進組織活動 継続10か所 新規5か所
支援内容	研修会等の情報提供、連絡調整、相談支援、活動把握、地域に出向き説明

7. ボランティア活動の支援

〈評価と方向性〉

ボランティアセンターの設立は、地域福祉活動計画の大きな柱の1つです。その設立に向けて、ボランティアセンター設立準備委員会を開催し、近江八幡市らしいボランティアセンターの目標と機能について協議いただきました。

この目標と機能に基づきボランティアセンターの運営を行っていきたいと考えています。

(1) ボランティアセンター運営委員会の開催

① ボランティアセンター運営委員会の開催

市民参画によるボランティアセンターを目指して、市内の活動者や受け入れ施設、支援機関により運営委員会を開催し、ボランティアセンターの役割と機能を推進していくために、運営について協議を行いました。

また、ボランティアセンターの取り組みを市民に啓発するため、社会福祉大会においてシンポジウムを開催しました。

開催日	内 容
第1回 平成26年 6月19日	平成25年度ボランティアセンター事業報告書(案)について 平成26年度ボランティアセンターの事業計画(案)について
第2回 平成26年 9月 5日	平成26年度ボランティアセンターの取り組み状況について ボランティアを取り巻く情勢変化について 平成26年度近江八幡市社会福祉大会シンポジウムの企画(案)について
第3回 平成27年 3月12日	平成26年度ボランティアセンターの取り組み状況(9月～3月)について 平成27年度ボランティアセンターの重点目標(案)について 平成27年度以降の運営委員について

(2) ボランティアセンター事業の運営

① ボランティア活動相談

ボランティア活動等に関する情報提供や相談等を行い、活動の支援を行いました。

活動依頼では、ふれあいサロンや老人会などでのレクリエーション等の相談による調整が増加しました。専任のコーディネーターを配置したことで、相談件数・活動依頼とも増えました。また、今後の活動につながる講座の開催や講座終了後の支援についても充実した取り組みを行うことができました。

	平成26年度	平成25年度
登録受付	個人119名・団体101件	個人104名・団体98件
相談受付・情報提供	1,570件	918件
活動依頼	604件	342件

②講座の開催

くらし応援サポーター養成講座を開催し、地域での見守りや支えあいの推進を目指して、傾聴を取り入れた講座を開催し、平成25年度の地域支えあい講座の受講生とともに交流の機会を作りながら傾聴ボランティア活動に取り組んでいきたいと考えています。

◇くらし応援サポーター養成講座

開催日	内 容	参加者
平成26年 8月12日	「地域の生活、今と未来」 講師：NPO 法人しみんふくし滋賀 事務局長 成瀬和子氏	32名
平成26年 8月19日	「ココロに寄り添う傾聴法」 講師：NPO 法人しみんふくし滋賀 事務局長 成瀬和子氏	35名
平成26年 8月	市内高齢者福祉施設・障がい者作業所での活動 体験期間：8月20日～26日	31名
平成26年 8月27日	「生活を支える取り組み」 講師：安心お助け隊（守山市） 隊長 小林仁司氏	30名

③安土町ボランティア連絡協議会の支援

ボランティア活動の推進のため、安土地区で活動されている安土町ボランティア連絡協議会活動を支援しました。

（3）ボランティア保険加入の窓口

①ボランティア保険の手続き

ボランティア活動保険加入の手続き窓口として、事務を行いました。

	活動保険	行事用保険	福祉総合保障
平成26年度	2, 533名	49件	2団体
平成25年度	2, 484名	46件	2団体

（4）地域活動相談の実施

①地域コーディネーターの設置

退職前後の男性が地域活動をはじめるきっかけの相談窓口として地域コーディネーターによる相談活動を実施しました。

この相談事業の啓発を行い、相談したい方に知ってもらえるよう取り組んでいきます。

◇地域活動相談

と き：毎週月曜日（第5週を除く） ところ：ひまわり館ボランティアセンター

内 容：退職男性を対象とした地域活動相談

開催日：48日

相談件数：11件（平成25年度 6件）

◇地域コーディネーター会議の開催 3回開催

(5) ボランティア広報紙の発行

①「はちまんボランティアだより」の発行

ボランティア活動推進のため、年5回（6月、8月、10月、12月、2月）発行し、回覧により啓発を行いました。

また、社協広報「社協おうみはちまん」において、ボランティア活動推進のための記事を掲載しました。（5月、7月、9月、11月、1月、3月）

8. 災害時の組織体制の整備

〈評価と方向性〉

災害ボランティアセンターの運営に向けて、市内の関係機関との協力体制や役割など現時点で感じた必要なことを確認し合いました。今後は市域、学区域のネットワークづくりとともに、災害時に社協が災害ボランティアセンターを立ち上げることの意識啓発に取り組んでいくことが必要です。

(1) 災害ボランティアセンターの体制整備

①災害ボランティアセンター開設・運営のためのネットワーク構築に向けた検討会議

災害時における災害ボランティアセンターの開設・運営に向けた体制整備として、関係機関における意見交換を行いました。

開催日	内容
平成27年 1月20日	地域防災計画、今後の取り組みについて

②講座の開催

災害講座を開催し、災害時の共助の大切さについて学びました。

開催日	内容	参加者
平成27年 2月13日	「土砂災害について」 県庁砂防課 「河川による災害について」 県庁流域政策課	32名
平成27年 2月20日	「災害ボランティアセンターについて」 県社協 復興に地域での助けあいと災害ボランティアについて グループワーク	34名

③総合防災訓練参加

近江八幡市が実施する総合防災訓練に参加し、災害ボランティアセンター設置および運営訓練を実施しました。

と き：平成26年8月31日 ところ：金田小学校

④災害ボランティア活動

ボランティア募集を災害ボランティア講座の受講生に対して行い、災害支援活動として土砂出し、床下の泥出し等を行いました。

活動日：平成26年9月4日

活動場所：兵庫県丹波市

参加者：ボランティア6名・実習生1名・職員5名

9. 福祉教育の推進

〈評価と方向性〉

校長会での周知や、学校支援メニューフェアへの出展、学校支援コーディネーターへの呼びかけなど学校に働きかけての福祉教育の推進を図り、学校や地域での福祉教育を実施しました。

(1) 福祉学級

子どもたちに福祉に対する理解や関心をもってもらうことを目的に開催しました。

また、退職男性グループに昼食づくりを依頼し、活動の機会となりました。

開催日	内容	参加者
平成26年 8月20日	内容：「見えないって、どんなこと？」 場所：ひまわり館ホール	子ども23名 保護者 5名
平成26年12月13日	内容：余暇支援クラブ「はちのこ」・「すまいる」との交流 ※障がい児余暇支援事業ふれあいクリスマス会として開催 場所：ひまわり館ホール	68名

(2) 学校に対する啓発活動

①学校や地域等に対する啓発活動や福祉体験

学校や地域で行われた福祉学習への支援、協力を行いました。

今後も新しいプログラム作りと、継続して福祉教育に関する取り組みの働きかけの必要があります。

	小学校	中学校	高等学校	専門学校	その他
平成26年度	5校28件	1校11件	4校6件	0件	2件
平成25年度	6校25件	1校1件	4校5件	0件	3件

(3) 地域における福祉教育の推進

①ふれあいサロン活動等自治会単位への職員派遣 11件（平成25年度10件）

②学区（地区）域で開催された研修等への協力 19件（平成25年度13件）

③団体の研修等への協力 6件（平成25年度6件）

10. 子育て支援事業

〈評価と方向性〉

社会福祉協議会では、市の委託事業として「つどいの広場」事業を実施しています。今後は、委託事業の実施とともに小地域で取り組みが実践できるように検討していきます。

(1) 子育て支援事業

就学前の子どもとその保護者が気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で、情報交換や交流を図る場として「つどいの広場事業」を開催しました。

事業を通して、子育てに不安がある保護者への相談援助活動や地域の子育て支援に関する情報提供、使わなくなった育児用品やおもちゃなどのリサイクル広場を行いました。

また、昼食時や料理教室において食育についてのお話しの場を設けました。今後、より多くの方に参加していただけるよう周知と内容の工夫をしていく必要があります。

開催日：毎週火・水・金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

ところ：あいあいの家（安土町上豊浦古民家）

内 容：お話広場（毎月第1火曜日） ティタイム&お誕生会（毎月第3水曜日）

ママ教室 遊びの広場 リサイクル広場

	開催日数	延べ参加者
平成26年度	144日	2,830名
平成25年度	145日	3,041名

11. 高齢者支援事業

〈評価と方向性〉

市の委託事業として「多世代交流サロン」を実施しています。それぞれの地域で実施しているふれあいサロン事業との違いを明確にし、地域交流を図っていきたいと考えます。また、介護保険制度改正に伴う介護予防事業の取り組みについて、注視していきたいと考えています。

①多世代交流事業

子どもから高齢者まであらゆる世代の人たちがふれあえる環境を整備し、誰もが住みよい元気のでるまちづくりの拠点として、機能の充実を図ることを目的に開催しました。

多世代の交流が図れるよう内容の工夫と周知について検討が必要です。

開催場所	平成26年度		平成25年度	
	開催回数	延べ利用人数	開催回数	延べ利用人数
ひだまり庵（ふくふくの家）	46回	993名	45回	1,043名
常楽寺老人憩いの家				

12. 障がい者支援事業

〈評価と方向性〉

地域との連携や手話通訳の派遣など本会の強みを活かした障がい者支援事業を実施しました。相談支援機関や障がい福祉サービス事業所と連携しながら実施していきます。

(1) 相談事業

ピアカウンセリング・知的障がい者生活相談

ピアカウンセリング、知的障がい者生活相談を実施しました。

知的障がい者の生活相談については、相談者の要望もあり、地域のコミュニティセンターを借りて実施しました。

	相談日数	相談件数	平成25年度
ピアカウンセリング	0日	0件	0件
知的障がい者生活相談	12日	5件	8件

(2) 手話通訳事業

聴覚障がい者のコミュニケーション支援のため、手話通訳サービスを実施しました。

日野町、竜王町と委託契約を行い、手話通訳者を派遣しました。

	手話通訳派遣	派遣日相談	メール相談	合計	平成25年度
日野町	56件	36件	23件	115件	82件
竜王町	123件	36件	0件	159件	109件

(3) 障がい児福祉活動の推進

①障がい児サマーホリデーサービス事業

夏休みに障がい児の余暇支援活動を実施しました。

事前に保護者懇談会を開催し、保護者の参加を呼びかけました。また、地域のボランティアや民生委員児童委員の協力のもと事業を実施し、障がい児の地域生活を考える機会となりました。8月12日に保護者交流会を開催しました。

期 間：平成26年7月23日～8月22日の期間のうち20日間

と ころ：安土地区内公共施設、安土小学校、老蘇小学校、きぬがさ作業所

内 容：おやつづくり、おもちゃづくり、レクリエーション、水遊び、交流会

バスによる外出（ラフォーレ琵琶湖、琵琶湖博物館、あいとうマーガレットステーション、竜王アグリパーク）

平成26年度	療育教室登録	15名	延べ参加者147名	1日あたり7.4名
	作業教室登録	3名	延べ参加者 6名	1日あたり1名
平成25年度	登録児童生徒	18名	延べ参加者183名	1日あたり9.2名
	作業教室登録	4名	延べ参加者 3名	1日あたり0.5名

②障がい児休日生活支援事業

毎月1回、障がい児の休日の余暇支援活動を実施しました。12月には、「はちのこ」、市内の小学生対象の福祉学級との交流会を実施しました。

また、6月28日に保護者交流会を開催し、2名が参加されました。

開催日：年10回 毎月第1土曜日（7月、8月を除く）に開催

ところ：安土地区内公共施設

内 容：おやつづくり、いちご狩り、茶話会、「はちのこ」、福祉学級との交流会

バスによる外出（キリンビール工場、梨狩り、東近江大凧会館）

平成26年度	登録児童生徒	12名	延べ参加者63名	1日あたり6.3名
平成25年度	登録児童生徒	11名	延べ参加者63名	1日あたり6.5名

③ふれあいクリスマス会の開催（歳末事業）

日時：平成26年12月13日（土）

場所：総合福祉センターひまわり館ホール

内容：輪ゴムブレスレッド作り、ダンス、昼食、お楽しみ会

参加者：計68名

④地域支えあい講演会の開催

日時：平成26年11月29日（土）

場所：総合福祉センターひまわり館ホール

演題：貧困とひとりぼっちのないまち～子どもの貧困を考える～

講師：幸重社会福祉士事務所 代表 幸重忠孝さん

参加者：40名

ロビーにて、市内作業所自主製品販売コーナーを実施（3作業所参加）

13. 備品貸出

〈評価と方向性〉

本所、支所それぞれで実施しました。利用頻度は高く、今後とも実施していきたいと考えています。

（1）備品貸出事業

①車椅子の貸出

他制度・他施策で貸与や支給が受けられない方を対象に車椅子の貸し出しを行いました。

	平成26年度	平成25年度
本 所	329件	359件
支 所	28件	40件

②レクリエーション備品の貸出

ふれあいサロン活動のなどのためのレクリエーション備品の貸し出しを行い、地域活動の支援を行いました。

	平成26年度	平成25年度
本所	62件	53件
支所	116件	128件

14. 福祉サービスの利用支援

〈評価と方向性〉

地域福祉権利擁護事業の利用者は伸びていますが、生活支援員が1名だけのため、専門員への負担が大きくなっています。

この事業の利用は、今後も増えていくことが予想されることから、職員体制の充実を図れるようつとめていきます。

平成27年度施行の生活困窮者自立支援制度のモデル事業として、家計相談支援事業を受託しました。平成27年度の実施に向けて、関係機関との連携をとりながら事業を実施していきます。

(1) 総合相談事業

住民の身近な相談所として、また、福祉課題の把握の窓口として、各種相談事業を実施しました。

心配ごと相談は、本所で月4回、支所で月1回開催しました。今後も周知を行っていく必要があります。

	相談日数	相談件数	平成25年度	
心配ごと相談（本所）	47日	22件	56日	19件
	10日	2件	10日	2件
（支所）				
弁護士相談	13日	63件	69件	
司法書士相談	1日	5件	8件	

(2) 地域福祉権利擁護事業

①地域福祉権利擁護事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等で判断能力が不十分な方が、安心して地域で生活ができるよう、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理、書類預かり等を行う事業を実施しました。行政や地域の障がい者支援センターからの相談から契約にいたるケースが多くありました。契約件数は年々増加しています。

	認知症高齢者等	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
相談援助件数	1,304件	927件	1,411件	0件	3,642件
新規契約件数	7件	2件	4件	0件	13件
累計契約件数	25件	20件	27件	0件	72件
				平成25年度累計契約件数	64件

②利用者交流会

地域福祉権利擁護事業利用者の孤立を防ぐことを目的に利用者交流会を開催しました。この交流会は、本事業利用者が地域でのつながりが少ないという課題が明らかになり、平成23年度から実施したものです。利用者にとって楽しみなイベントの一つになっています。

開催日	内容	参加者
平成26年 6月 7日	茶話会・ゲーム	7名
平成26年11月 1日	茶話会・ゲーム	3名

平成25年度 参加者10名

(3) 生活福祉資金貸付

①生活福祉資金貸付事業

滋賀県社会福祉協議会が実施する生活福祉資金貸付事業の相談窓口として、相談支援活動を通して貸付事業を実施しました。

貸付手続きだけでなく、申し込み相談の内容からその世帯の抱えている、問題点を把握し、他の福祉サービスに繋げることができました。

また、平成27年度からは、生活困窮者自立支援制度との連携が重要になります。

	平成26年度	平成25年度
相談件数	59件	67件
新規貸付件数	9件	9件

②小口資金貸付事業

生活保護適用までの方やすでに生活保護を受給されている方を対象に近江八幡市の補助事業として小口資金貸付事業を実施しました。

借受者の実数、延べ人数とも平成25年度より減少しています。

平成26年度	平成25年度
91件	175件

(4) 生活困窮者支援

①家計相談支援モデル事業（受託事業）

失業等により生活が困窮状態にある人およびこのような状態に陥る恐れのある人からの

相談に応じ、家計の視点から各種の情報提供や専門的助言・支援を行い、家計を管理する力を高め、早期に生活が再建されることを目的に事業を受託し、実施しました。

	契約件数
平成26年度	2件

②食料支援

一時的に食料がない方に対して、世帯人数に応じた食料をお渡ししています。

	支援世帯
平成26年度	20世帯

15. 高齢者支援サービスに関する事業

〈評価と方向性〉

介護保険サービスの対象とならないサービスとして実施している事業です。その必要性は高く、引き続き事業を実施していきます。

(1) 福祉輸送事業

①福祉輸送事業

公共交通機関の利用困難な要介護高齢者を対象に通院（介助）、送迎を行いました。

	平成26年度	平成25年度
延べ利用者	87名	134名
延べ件数	100件	245件

(2) 生活支援事業

①生活支援

生活支援事業は、社会福祉協議会の独自事業として実施し、公的サービスでは対応できない一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象に、通院介助や入院時の洗濯などのサービスを引き続き実施していきます。

	平成26年度	平成25年度
延べ利用者	39名	38名
延べ件数	211件	50件
派遣時間	105.5時間	102.5時間

16. 介護保険事業

〈評価と方向性〉

介護保険事業は、社会福祉協議会の収入の大きな柱となっていますが、利用者の減少な

ど厳しい運営となりました。平成27年度は、介護報酬の改定により報酬の減少が予想されるため、サービスの質を落とすことなく、効率的な運営が求められます。

(1) 居宅介護支援事業

平成26年度は、主任介護支援専門員3名を含む7名の体制でスタートしましたが、職員1名が退職し、新規利用者の受け入れが十分にできず、件数増には至りませんでした。

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成26年度	34	70	806	571	315	179	120	2,095
平成25年度	19	60	819	640	258	198	180	2,174

※保留4件

(2) 通所介護・介護予防通所介護事業

要介護状態の高齢者に対し、送迎、入浴、食事、レクリエーション等のサービスを実施しました。

「ひまわり」は、要支援者の介護度のアップにより要支援が減少し、重度の利用者の多くが病状悪化により入院や施設入所となったことで、要介護4、5が大きく減少傾向になりました。

「きらめきあづち」も同様に減少傾向にあり、両事業所ともに契約者数の底上げをする努力を引き続き重ねてまいります。

① デイサービスセンターひまわり

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成26年度	76	240	2,098	1,694	1,554	501	1,068	7,231
平成25年度	99	362	2,128	1,812	1,268	894	1,127	7,690

② デイサービスセンターきらめきあづち

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成26年度	89	265	2,705	2,084	1,110	729	296	7,278
平成25年度	130	390	2,412	2,084	1,034	984	289	7,323

(3) 認知症対応型・介護予防認知症対応型通所介護事業

認知症高齢者に対し、送迎、入浴、食事、レクリエーション等のサービスを実施しました。

平成25年度下半期に平均利用率70%台となっていましたが、平成26年度に再び利用者が減少し、年間の利用者は平成25年度を下回りました。

要介護5の重度の利用者が増加した半面、要介護1、2の利用者が大きく減少しました。

①デイサービスセンターほのぼのあづち

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成26年度	0	0	44	705	472	187	301	1,709
平成25年度	0	0	113	964	351	327	105	1,860

(4) 訪問介護・介護予防訪問介護事業

居宅において、自立した生活が営めるよう入浴、排泄、食事等生活全般の援助を行いました。

平成26年度は、延べ利用者は増加しましたが、延べ派遣時間、派遣回数とも減少しました。

①ヘルパーステーションあづち

		年間延べ利用者	年間延べ派遣回数	生活援助派遣時間	身体介護派遣時間	乗降介助派遣時間	合計時間
平成26年度	要介護	6,252	9,725	2,249	5,197.1	89.5	7,535.6
	要支援	226	233	—	232.1	—	232.1
平成25年度	要介護	4,517	10,127	2,180	5,991.75	109.5	8,281.25
	要支援	241	380	—	380	—	380

17. 障害者総合支援法に基づく障がい福祉サービス事業

〈評価と方向性〉

平成25年度から相談支援事業所事業運営を本格実施していますが、平成26年度は、職員を1名増員して実施した結果、契約件数が大きく増加しました。

(1) 居宅介護事業所

身体障がい、知的障がい、精神障がいのある方が居宅において自立した生活が営めるよう入浴、排泄、食事等生活全般の援助を行いました。

利用者が介護保険事業に移行したため、利用者、派遣時間とも減少しました。

	延べ利用者	身体介護派遣時間	家事援助派遣時間	延べ派遣時間
平成26年度	31	34	158.5	192.5
平成25年度	36	57	167	232.5

(2) ガイドヘルプひまわり

視覚障がい者の外出支援のためのガイドヘルプ事業を実施しました。

「居宅介護」においては、通院等社会生活上不可欠な外出を支援し、「同行援護」においては、余暇などの外出支援を行うサービスとして実施しました。

	居宅介護	同行援護
平成26年度	121件	295件
平成25年度	74件	116件

(3) 相談支援事業所

障がい者福祉サービスや障がい児通所支援の申請に係るサービス等利用計画案を作成するとともに、サービス等の利用状況を確認し、計画の見直しやサービス事業者等との連絡調整を行いました。

	請求件数
平成26年度	419件
平成25年度	130件